

関係学研究センター 第一回研究会

資本主義と関係性： 疎外か搾取か

廣瀬 純 氏（龍谷大学経営学部教授）

【関係学研究センター】

当センターは、国際関係学、仏教学、量子論、現代思想の知見を結集し、不確実性の時代にふさわしい新たな社会科学を探究する研究拠点です。

【報告要旨】

資本主義下で労働者間に組織される「関係性」、職場での協業は労働者にとって両義的だ。協業の深化は労働を機械的なものから人間的なものに変え、労働者を人間性の疎外から解放するが、同時にそれは、労働者が同賃金でより多く働くこと、搾取の増大も意味する。産業資本は元来その価値増殖の源泉を、「分業」表象に基づく賃金と実際の労働における協業の組織化との差に求めてきた。「カイゼン」の標準化から生成AIの普及に至るまで、資本主義は今日、協業の全面化に邁進している。これを許したのは1970年代以降の労働者闘争の弱体化だろう。資本による包摂に対する労働者の人間性の「外在」でもある疎外は労働者の戦利品だったのではないか。

【発表者・廣瀬純 氏 略歴】

パリ第3大学映像視聴覚研究科博士課程中退。2004年より本学フランス語教員。主たる著書に*¿Cómo imponer un límite absoluto al capitalismo? Filosofía política de Deleuze y Guattari*, Tinta Limón, 2021（『いかにして資本主義に絶対的限界を突きつけるか ドゥルーズ＝ガタリの政治哲学』）。最新著書に*Los indios de Israel. Una lectura de los textos de Gilles Deleuze sobre Palestina*, Tinta Limón, 2026（『イスラエルのインディアン ジル・ドゥルーズのパレスチナ論を読む』）。

日付・場所

日時：2026年**6月27**日（土）

14:00-16:00 (予定)

(発表60分・質疑応答60分)

場所：深草キャンパス 灯炬館 301リサーチ
カンファレンス室

参加対象：本学教職員・学生

参加方法:下記フォーム、QRコードより
お申し込みください

[https://forms.gle/WVzxv
xgjc4p4rUkF6](https://forms.gle/WVzxv
xgjc4p4rUkF6)

